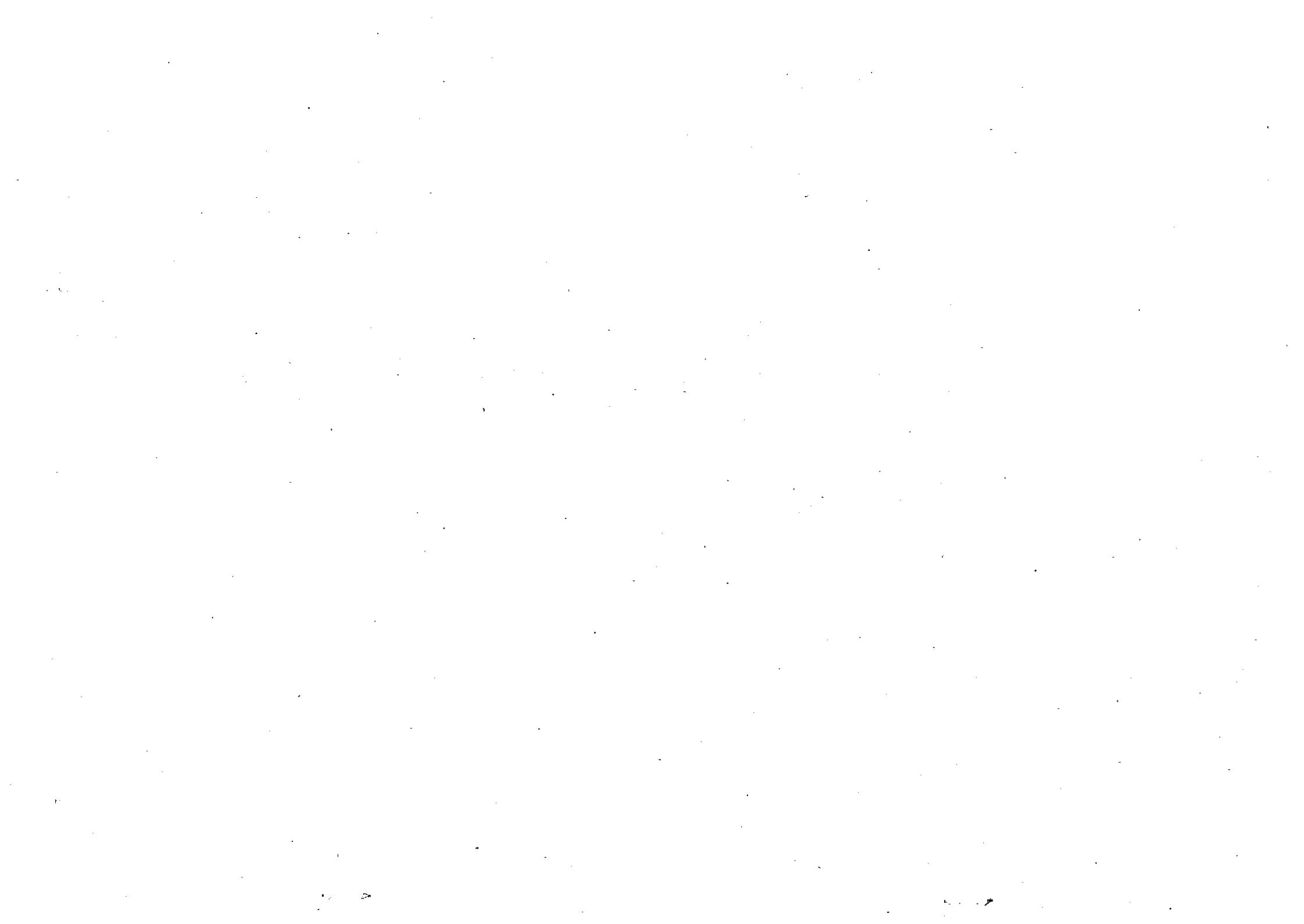


この夏の気象及び今後の気象見通し
((株)ウェザーマップ)

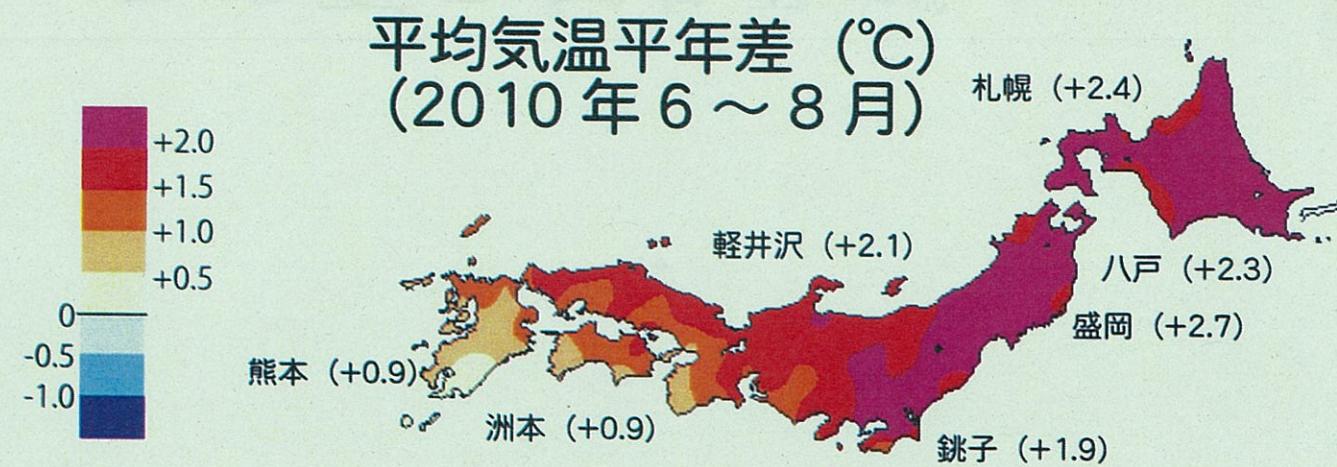


この夏の気象及び 今後の気象見通し



2010年夏（6～8月）の天候

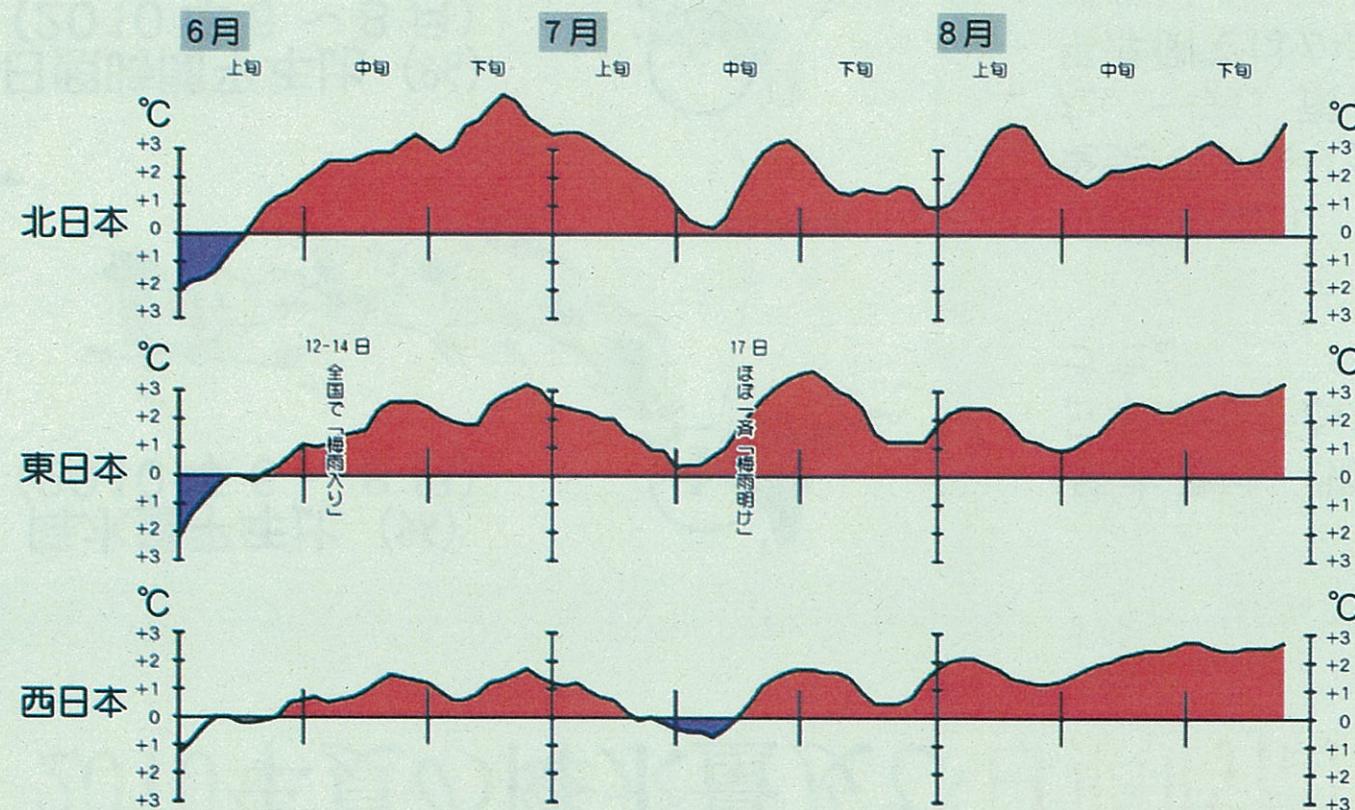
- 平均気温は、北日本から西日本にかけてかなり高く北日本と東日本では1946年以降で最も高かった。
- また、8月の地域平均気温は、1946年以降で北～西日本は第1位となった。



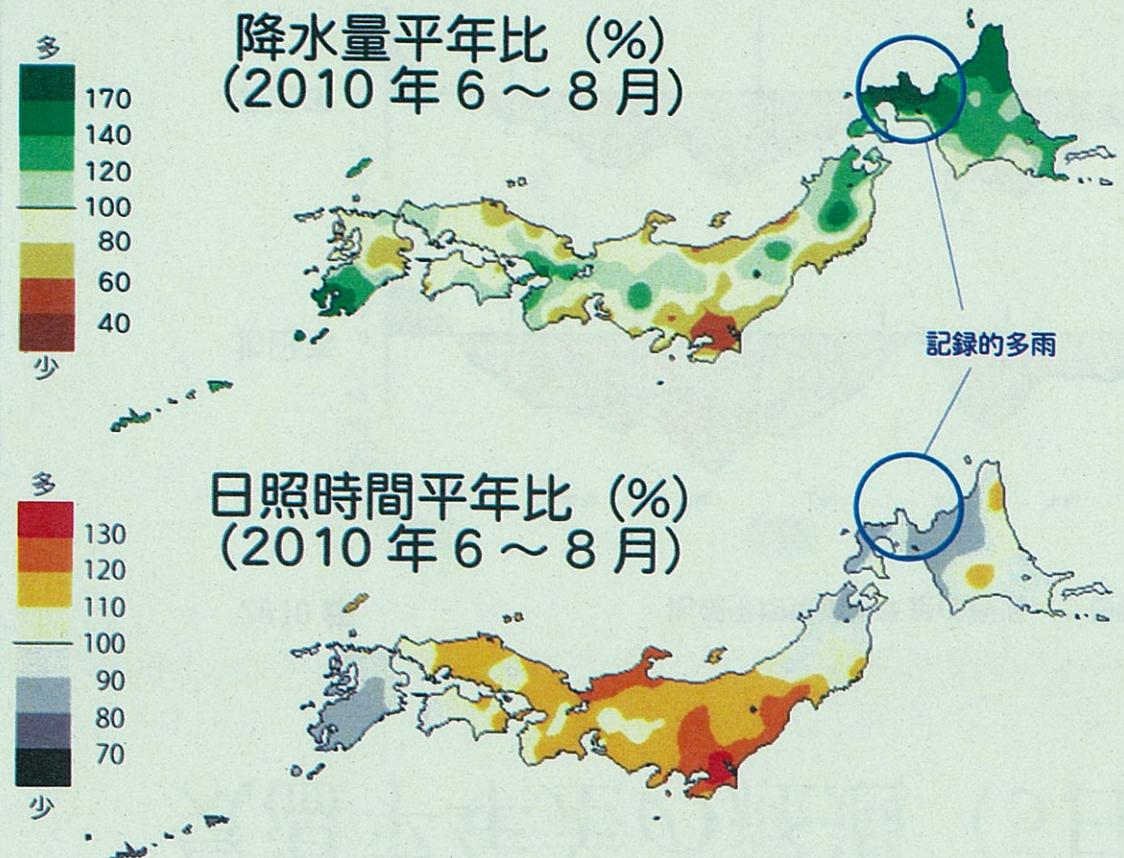
気温平年差の経過（5日移動平均）

2010年

地域平均気温平年差の経過（5日移動平均）

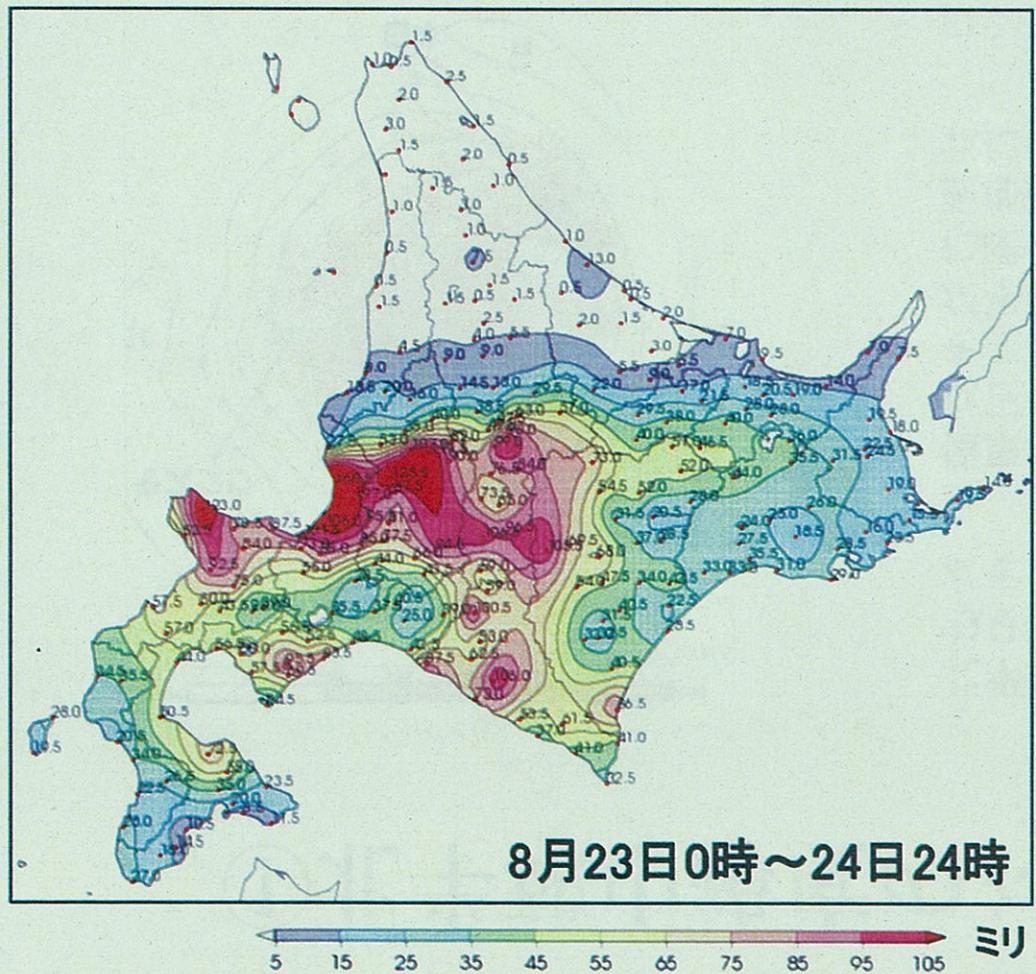


2010年夏の降水量及び日照時間



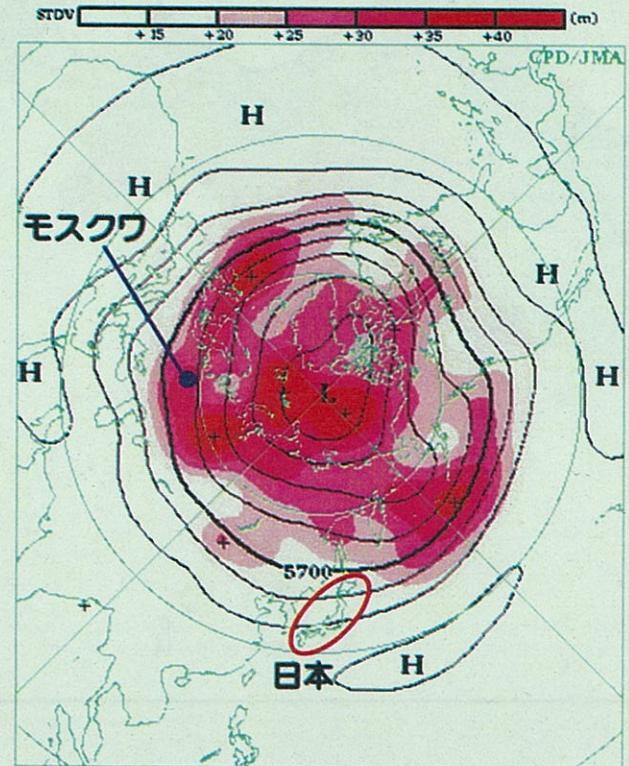
- 降水量は、北日本の日本海側でかなり多かった。
- 日照時間は、沖縄・奄美でかなり少なかつた。一方、東日本の太平洋側ではかなり多かった。

北海道での大雨



- 北海道では、この大雨により床上浸水16棟、床下浸水69棟の住宅の被害が発生し、石狩地方の石狩市では、避難指示、避難勧告が217世帯に対して発令された。上川地方の東川町では、道路の陥没により乗用車3台が転落し、1名が死亡し2名が軽傷を負った。
- また、同町の天人峡温泉地区は、道路が崩れ落ちたことにより孤立し、324人が足止めされた。この他にも道路の冠水等により国道6路線、道道12路線の通行止め、JRでは79本の運休等の被害が発生した。

①北半球中緯度の対流圏の気温

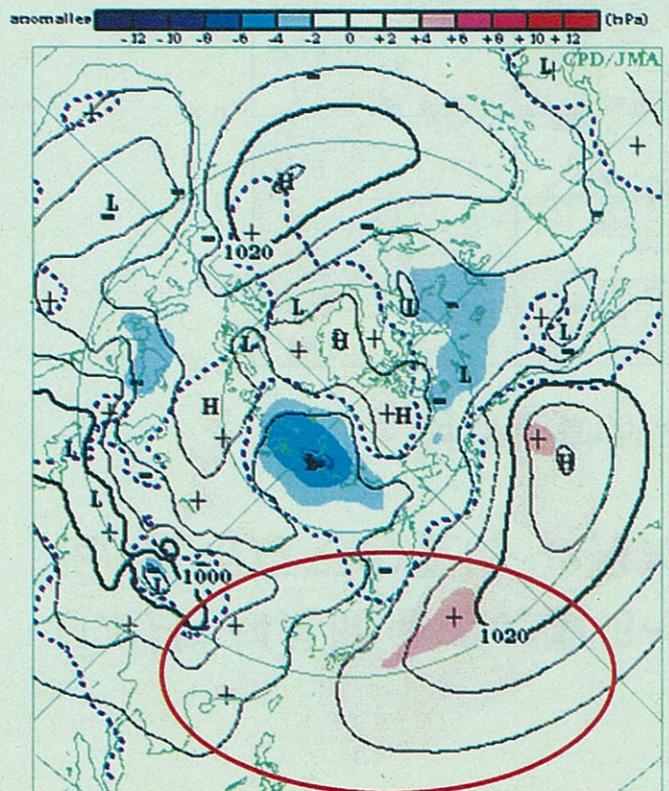


北半球 500hPa 高度と平年偏差
(2010 年 6-8 月)

赤い部分は高度が平年より高い
→平年より気温が高い。

- 北半球の中緯度帯は**広く正偏差**となっており、中緯度帯全体で気温が高かったことを示している。
- 極東域は、**北日本の緯度帯を中心に明瞭な正偏差**となっている。これは、高緯度を流れる寒帯前線ジェット気流（前線）が平年に比べ明瞭で、北日本付近に非常に暖かい空気が入ったことや、夏後半は亜熱帯ジェット（梅雨前線）が平年より北に偏ったことに対応している。
- ロシアでは記録的な高温と干ばつ。

②太平洋高気圧③オホーツク海高気圧



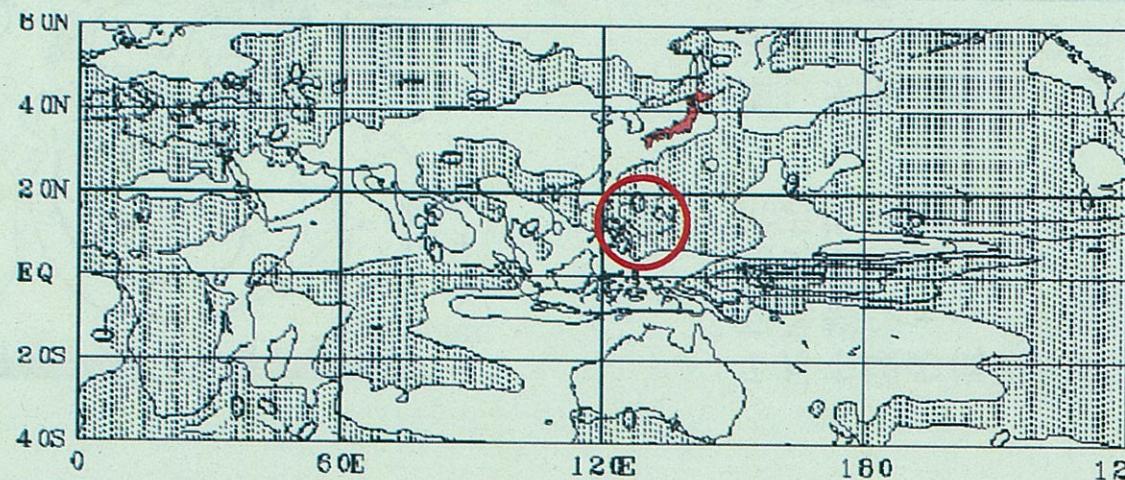
海面気圧の3か月平均と平年偏差
2010年6-8月

- 7月中頃の梅雨明け以降、日本付近の亜熱帯ジェット気流は、平年と比べて北寄りに位置し、**太平洋高気圧が日本付近に張り出した**。
- 南シナ海北部からフィリピン北東の**対流活動が活発**になったことが一因と考えられる。
- 冷涼なオホーツク海高気圧の影響を受けやすい夏の前半に、**オホーツク海高気圧はほとんど形成されなかった**。

予報修正の流れ

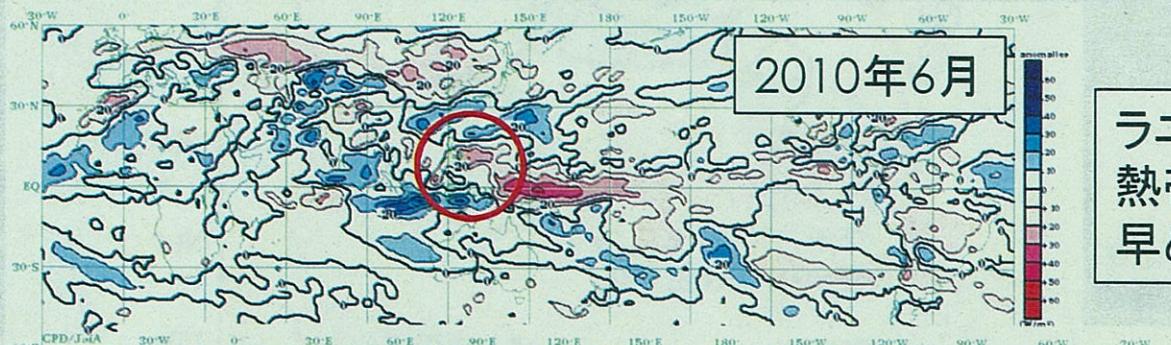
- ①2月～4月時点での夏(6～8月)の予測→北日本冷夏傾向
- ②5月時点での夏(6～8月)の予測→北日本冷夏傾向 (7～8月)

対流活動が不活発であると予想

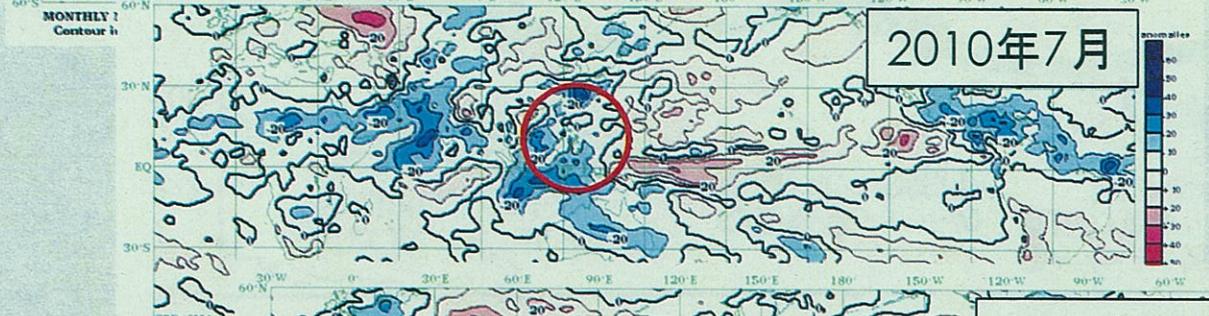


- ③6月時点での夏(7～8月)の予測→北日本、並～暑夏傾向？

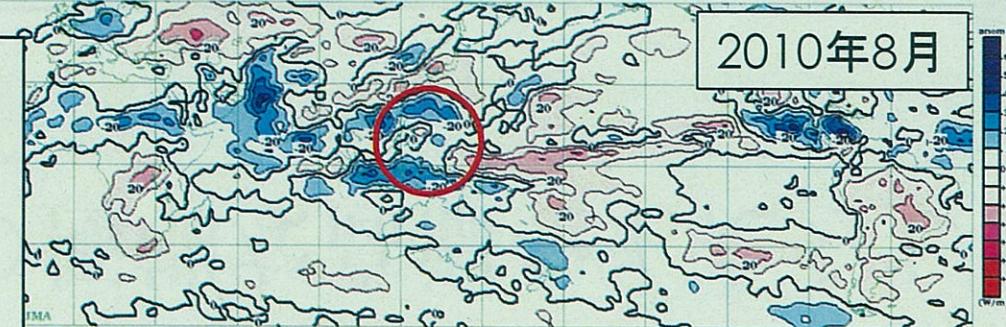
対流活動の変化



ラニーニャ現象の影響で、熱帯の対流活動が早めに活発化。



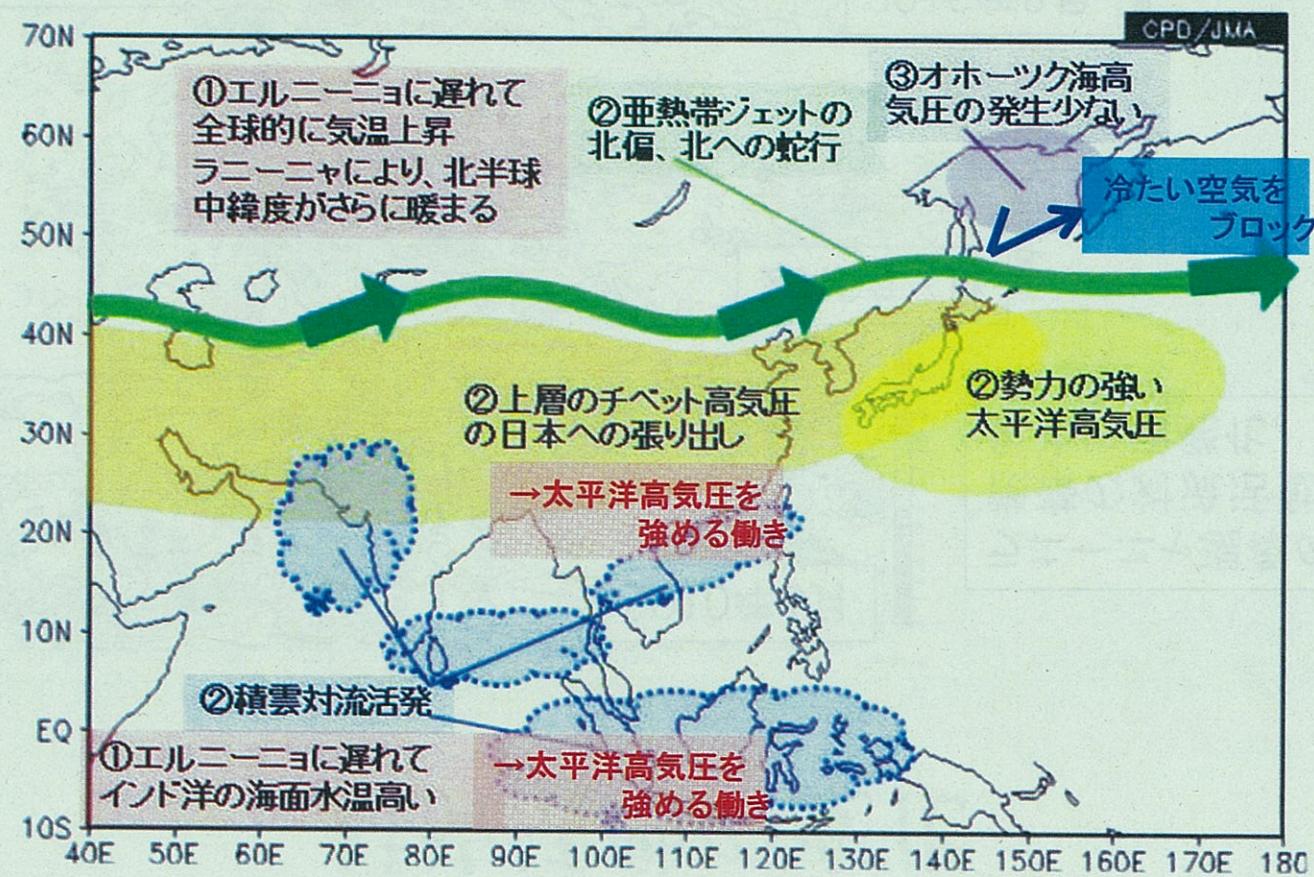
赤色領域は平年より対流活動が不活発、青色領域は平年より対流活動が活発なことを表す。



MONTHLY MEAN OUTGOING LONGWAVE RADIATION (OLR) ANOMALY
Contour interval is 10W/m². Base period for normal is 1979-2004. Original data are provided by courtesy of NOAA.

(Aug. 2010)

日本の極端な高温をもたらした要因



今後の気象は？（3か月予報より）

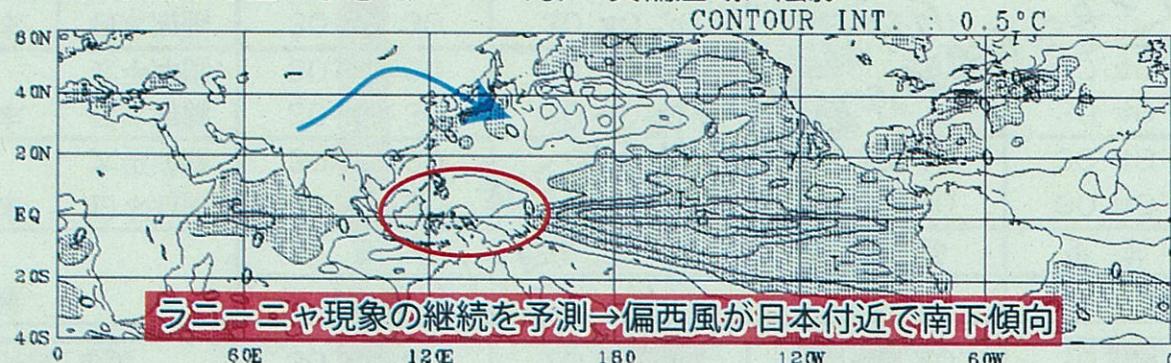
気温		3か月(%)	11月	12月	1月
		低並高	低並高	低並高	低並高
北日本		30:40:30	30:30:40	40:30:30	30:40:30
東日本		30:40:30	20:40:40	40:40:20	30:40:30
西日本		30:40:30	20:40:40	40:40:20	30:40:30
沖縄・奄美		30:40:30	20:40:40	40:40:20	30:40:30

降水量		3か月	11月	12月	1月
		少並多	12月は冬型気圧配置が強まりやすく 気に冷え込む可能性あり	少並多	少並多
北日本	日本海側	30:40:30		30:30:40	30:40:30
	太平洋側	30:40:30		30:30:40	30:40:30
東日本	日本海側	30:40:30		30:30:40	30:40:30
	太平洋側	30:40:30		30:30:40	30:40:30
西日本	日本海側	30:40:30		30:30:40	30:40:30
	太平洋側	30:40:30		30:30:40	30:40:30
沖縄・奄美		30:30:40	30:30:40	30:40:30	30:40:30

降雪量		3か月
		少並多
北日本	日本海側	30:40:30

予報の根拠

●海面水温平年差の予想（11～1月） 負偏差域に陰影



日本付近は負偏差

II
気圧の谷

日本付近は負偏差

II
低温傾向

●500hPa 高度偏差の予想

負偏差域に陰影

●850hPa 気温と偏差の予想

負偏差域に陰影

冬に向けての注意点

- ・ラニーニャ現象の継続が予想され、北半球規模では中緯度の気温が高い状態が予想される。ただし、12月は冬型気圧配置が強まりやすく、平年を下回る可能性あり。
- ・北極付近の寒気の南下（北極振動）については不確定性が大きく、明瞭なシグナルはいまのところない。
→北極振動については直近の1か月予報、異常天候早期警戒情報等に注視する必要あり。

